

国立大学病院長会議 記者会見

令和6年5月10日 一般社団法人国立大学病院長会議 会長 大鳥精司



一般社団法人
国立大学病院長会議
National University Hospital Council of Japan

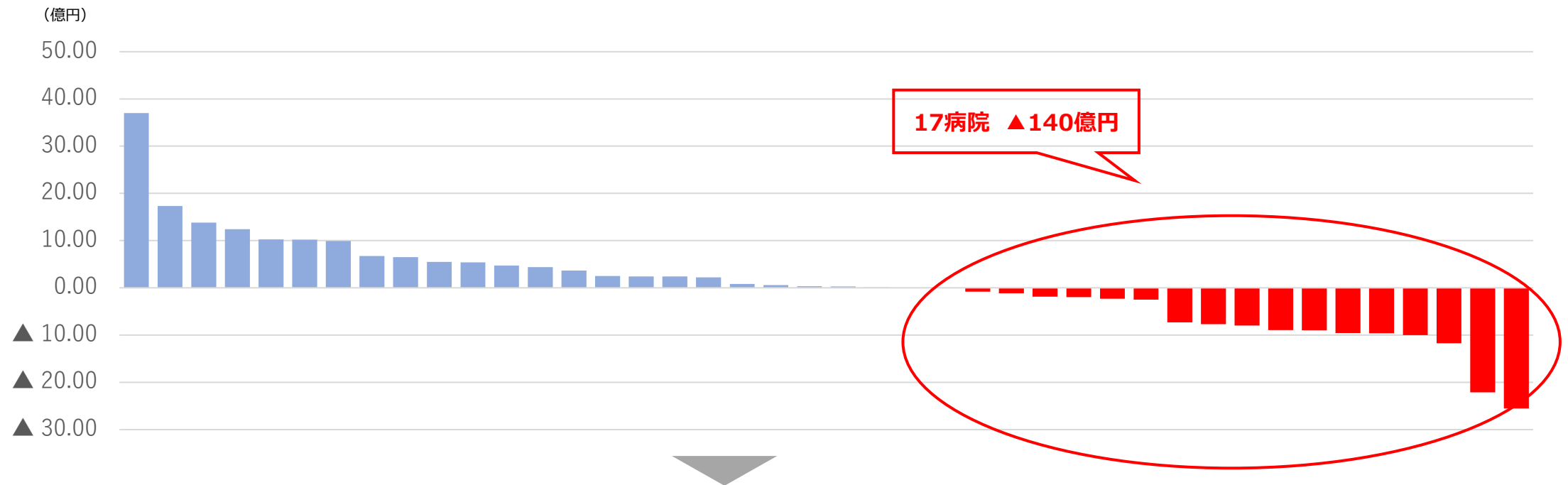
国立大学病院収支状況等調査について

令和5年度収支状況見込

【R5年度 収支状況見込】

- 昨今の物価・エネルギー価格高騰の影響
- コロナ補助金の縮減
- 働き方改革による人件費などの負担の増加 等

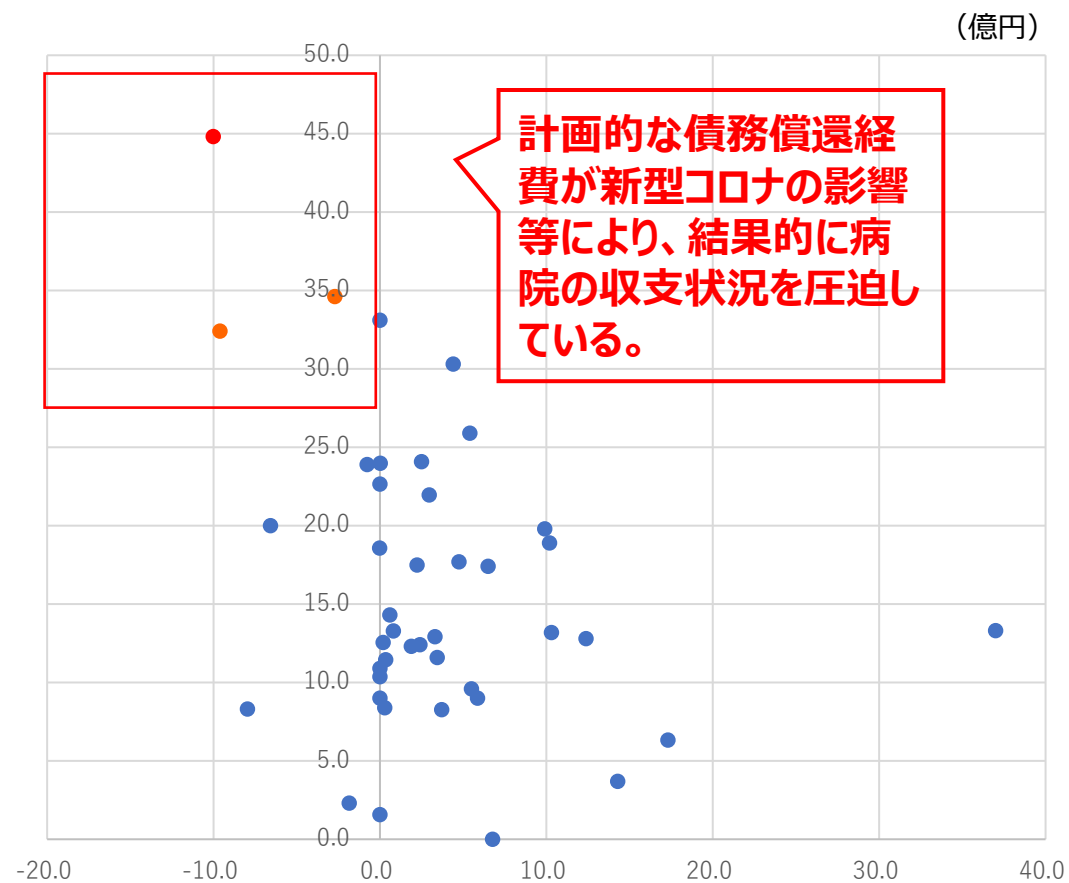
17病院が収支マイナスの見込み(計▲140億円)



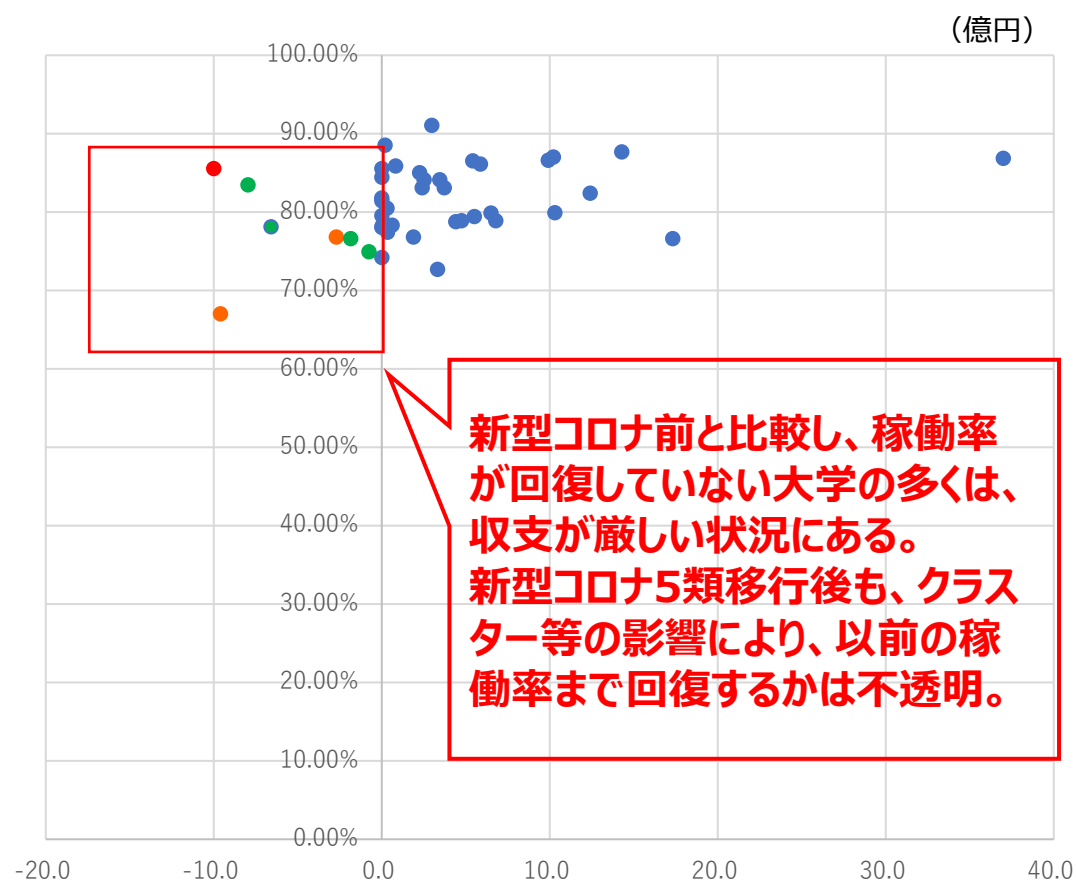
病院だけの対応では厳しく、大学全体の計画にも影響

令和5年度収支マイナス要因

令和5年度 (X軸：収支状況 Y軸：債務償還経費)



令和5年度 (X軸：収支状況 Y軸：稼働率)



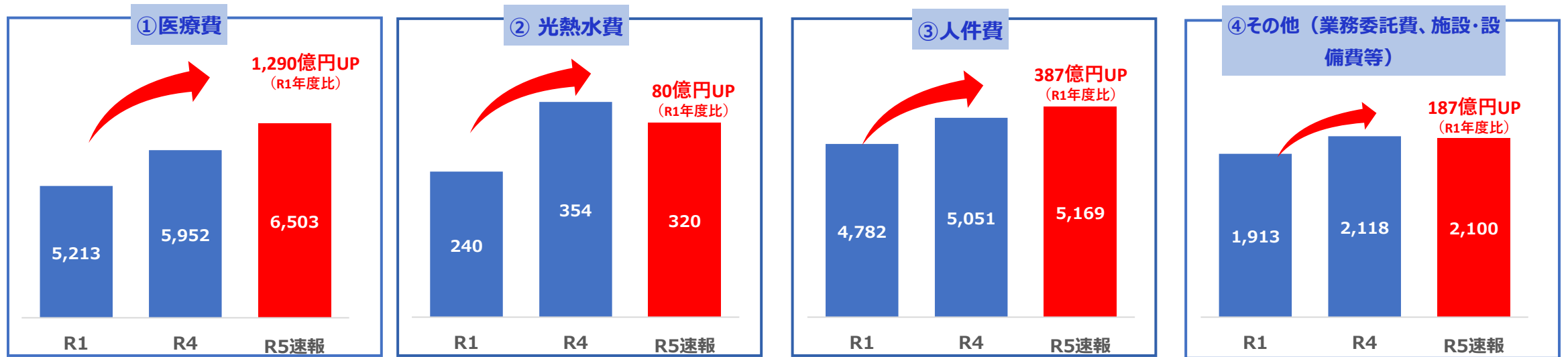
※42国立大学病院の合計債務償還経費は675億円

※42国立大学病院の合計値 ※R5年度は速報値

支出増加の要因

- ① 医療の高度化に伴い高額な医薬品、材料の使用量増による医療費の増加
- ② エネルギー価格高騰の影響から光熱水費の増加
- ③ 働き方改革、処遇改善の影響による人件費の増加
- ④ さらには物価高騰等による業務委託費の増加や老朽化が進む施設・設備への投資

単位：億円



・国立大学病院の保有する施設・設備の規模は大きく、**限界を迎えた老朽化施設・設備への投資は最低限必要**
(= **投資を怠ると事業継続 (収入確保) も困難**)

令和6年度収支に影響を及ぼす要因

令和6年度収支に影響を及ぼす要因

- コロナ補助金・物価高騰対策支援金の終了 ▲109億円
- 働き方改革の開始による人件費の増
- 診療報酬改定に伴う処遇改善の検討
- 地域医療介護総合確保基金の獲得

ほとんどの病院が交渉中、または今後交渉予定

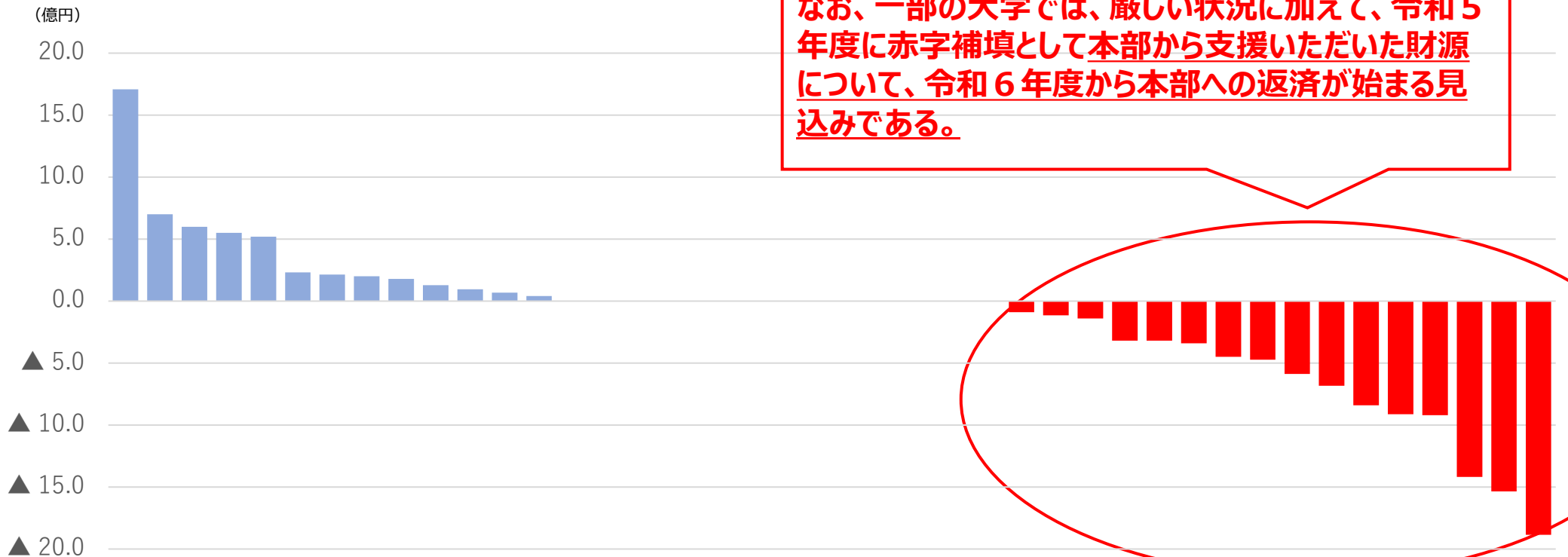
➡ ・収支見通しに影響を与える不透明な要素が多い

・地域医療介護総合確保基金の獲得は必須

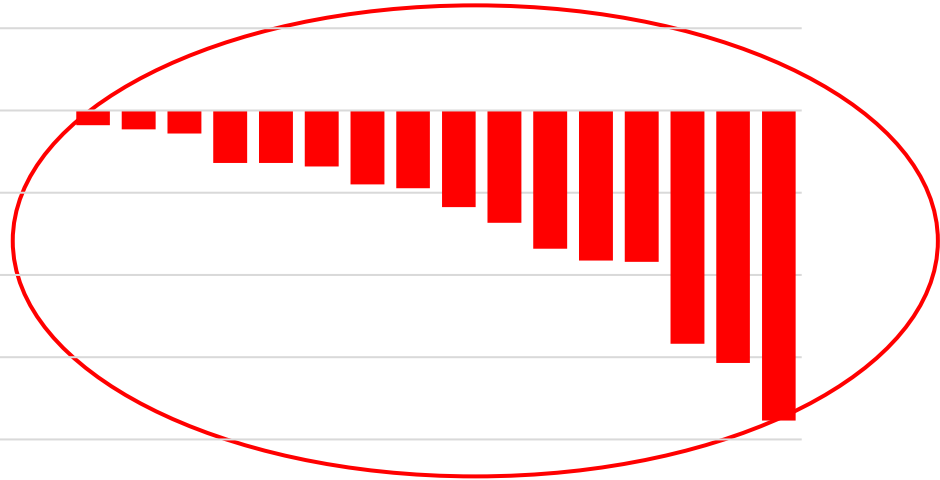
➡ ・収支状況によっては、必要最低限の医療機器すら更新できず、
高度医療提供に支障をきたす可能性あり

令和6年度収支見通し

【年度当初におけるR6年度収支見通し】



引き続き、高度な医療提供体制の維持を目指していくが、令和6年度の収支見通しも厳しい状況にある。なお、一部の大学では、厳しい状況に加えて、令和5年度に赤字補填として本部から支援いただいた財源について、令和6年度から本部への返済が始まる見込みである。



16病院が収支マイナスの見通し(計▲110億円)

※42国立大学病院の合計値

※R6年度は、R5年度実績を踏まえた年間見込

概要・組織図

国立大学病院長会議の概要

• 名称：一般社団法人国立大学病院長会議（NUHC National University Hospital Council of Japan）

2024.5.10現在

• 所在地：東京都文京区

• 組織：全国42大学44附属病院長で構成する団体

理事（会長）	大鳥精司	（千葉大学医学部附属病院長）
理事（副会長）	田中 栄	（東京大学医学部附属病院長）
理事	渥美達也	（北海道大学病院長）
理事	張替秀郎	（東北大学病院長）
理事	藤井靖久	（東京医科歯科大学病院長）
理事	丸山彰一	（名古屋大学医学部附属病院長）
理事	高折晃史	（京都大学医学部附属病院長）
理事	野々村祝夫	（大阪大学医学部附属病院長）
理事	前田嘉信	（岡山大学病院長）
理事	中村雅史	（九州大学病院長）
理事	塩崎英司	（事務局長）
監事	椎名浩昭	（島根大学医学部附属病院長）
監事	鈴木裕子	（鈴木裕子公認会計士事務所）

• 目的

国立大学法人法に定める法人により開設された病院（国立大学病院）における診療、教育及び研究に係る諸問題並びにこれに関連する重要事項について協議し、相互の理解を深めるとともに、意見の統一を図り、我が国における医学・歯学・医療の進捗発展に寄与する。

国立大学病院長会議 組織図

2024.5.10現在

